

内閣府男女共同参画局 第1回重点方針専門調査会

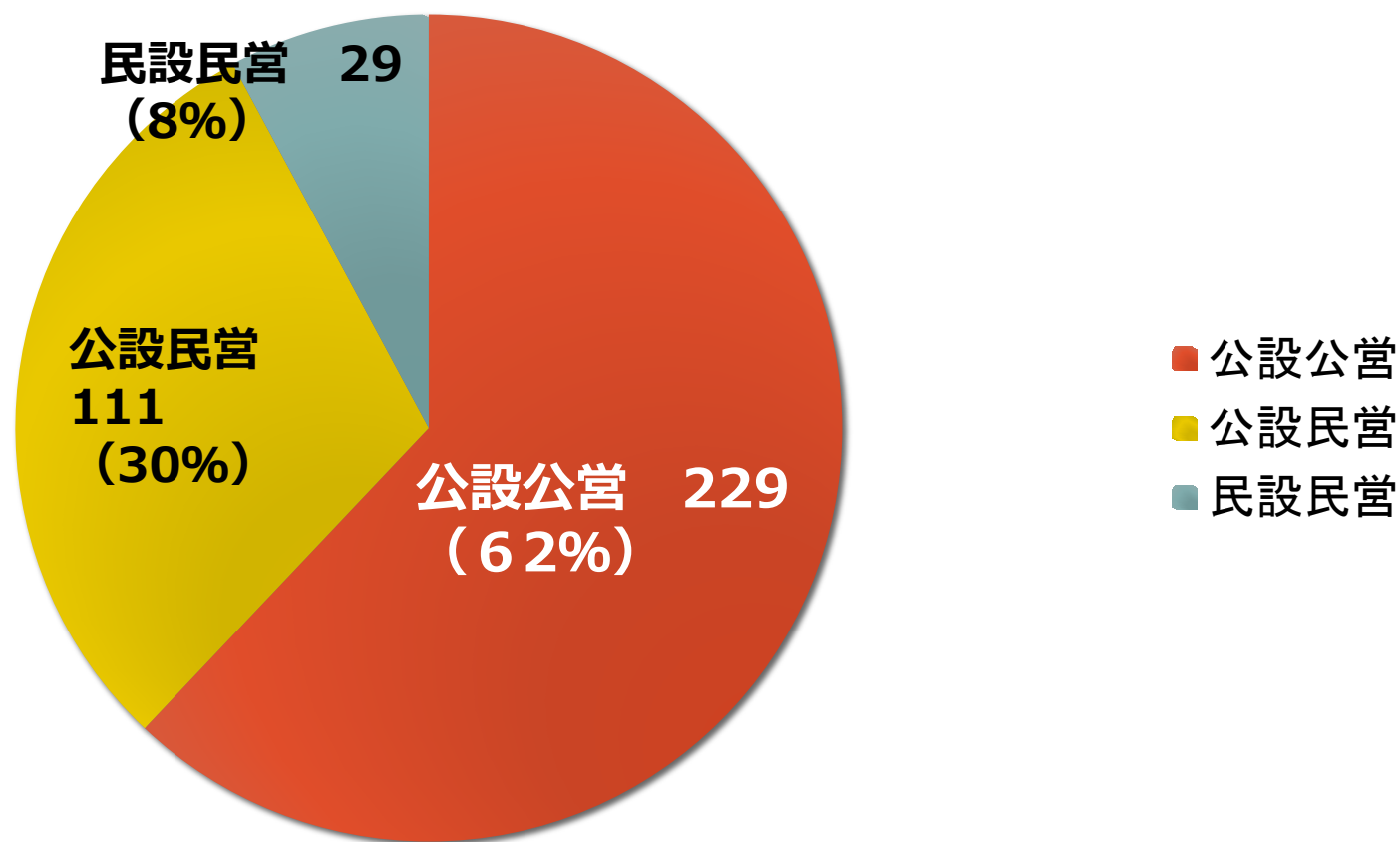
女性活躍加速における 男女共同参画センターの役割

平成28年3月25日

青森県男女共同参画センター
館長 小山内世喜子

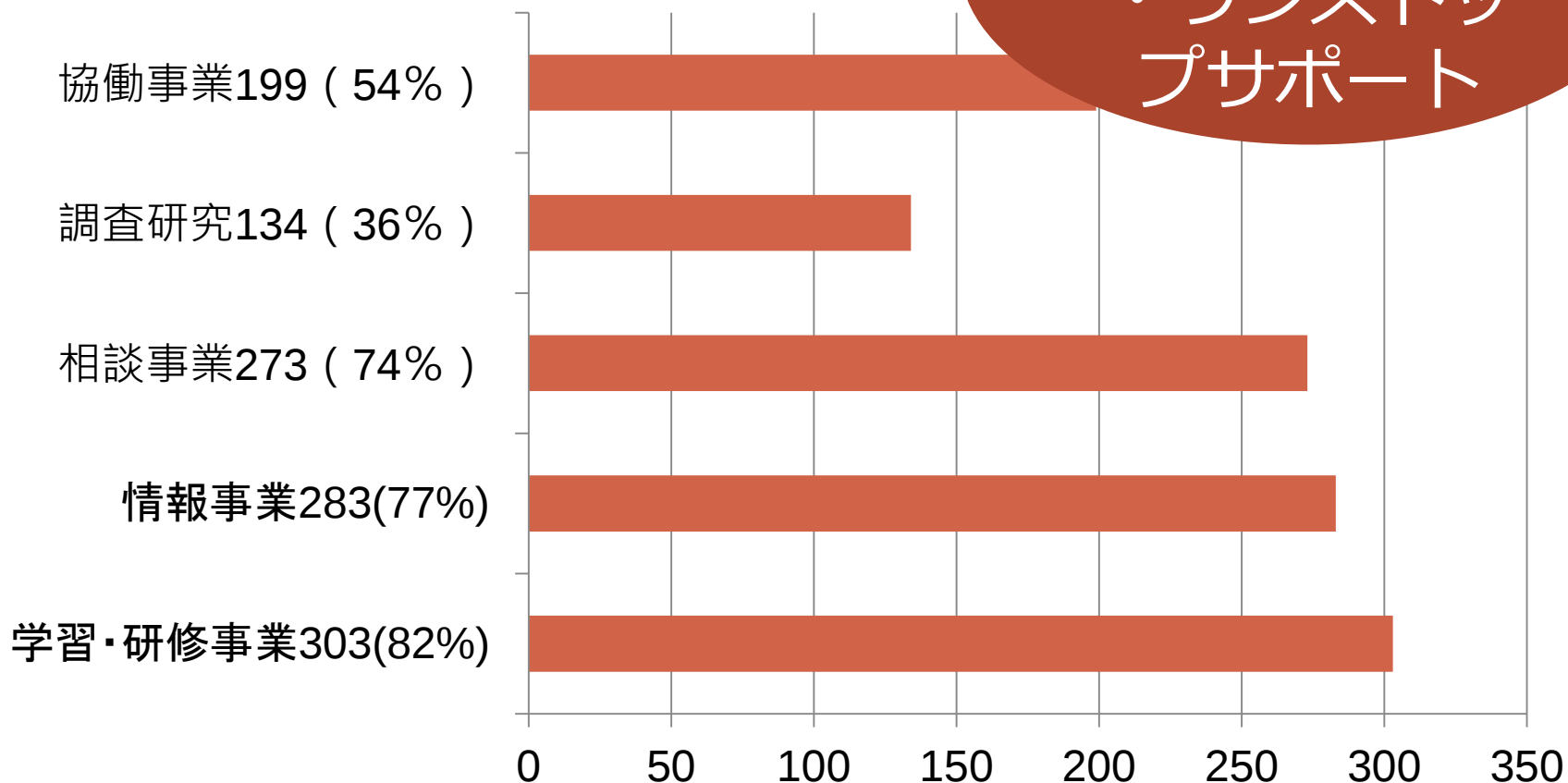
男女共同参画センターの数と運営形態

男女共同参画センターは全国に369施設



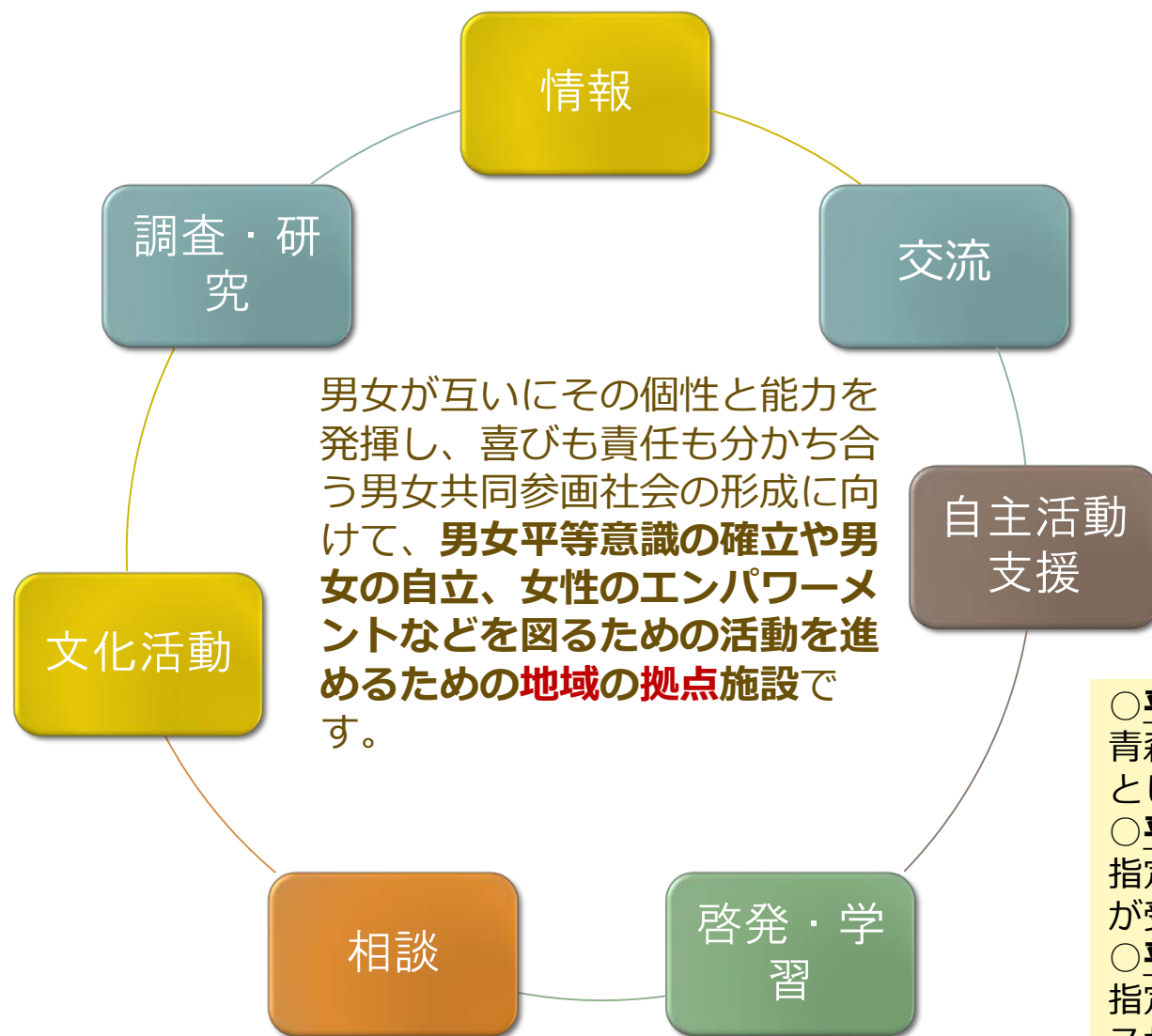
男女共同参画参画センターの実施事業

実施している事業



- ・女性の総合支援施設
- ・ワンストップサポート

青森県男女共同参画センター



地域住民と直接、接している現場である男女共同参画センターは活力ある地域社会を形成するために、地域において、男女とも、希望に応じて、安心して働き、子育てすることができると地域社会の実現をめざしている

○平成13年6月

青森県の男女共同参画の推進拠点としてオープン（公設公営）

○平成18年4月

指定管理者制度導入ASTAC・Gが受託（公設民営）

○平成27年4月

指定管理者青森コミュニティビジネスが受託（公設民営）

第4次男女共同参画基本計画

(Ⅳ 推進体制の整備・強化 3 ウ)

男女共同参画センターは男女共同参画に関する意識啓発や知識習得に加え、男女共同参画の視点から地域の課題を解決する実践的活動の場

・・・・・・・・・・・・・・・・

①研修、情報提供、自主的活動の場の提供、相談、調査研究等の機能を有し、男女共同参画の推進の重要な拠点

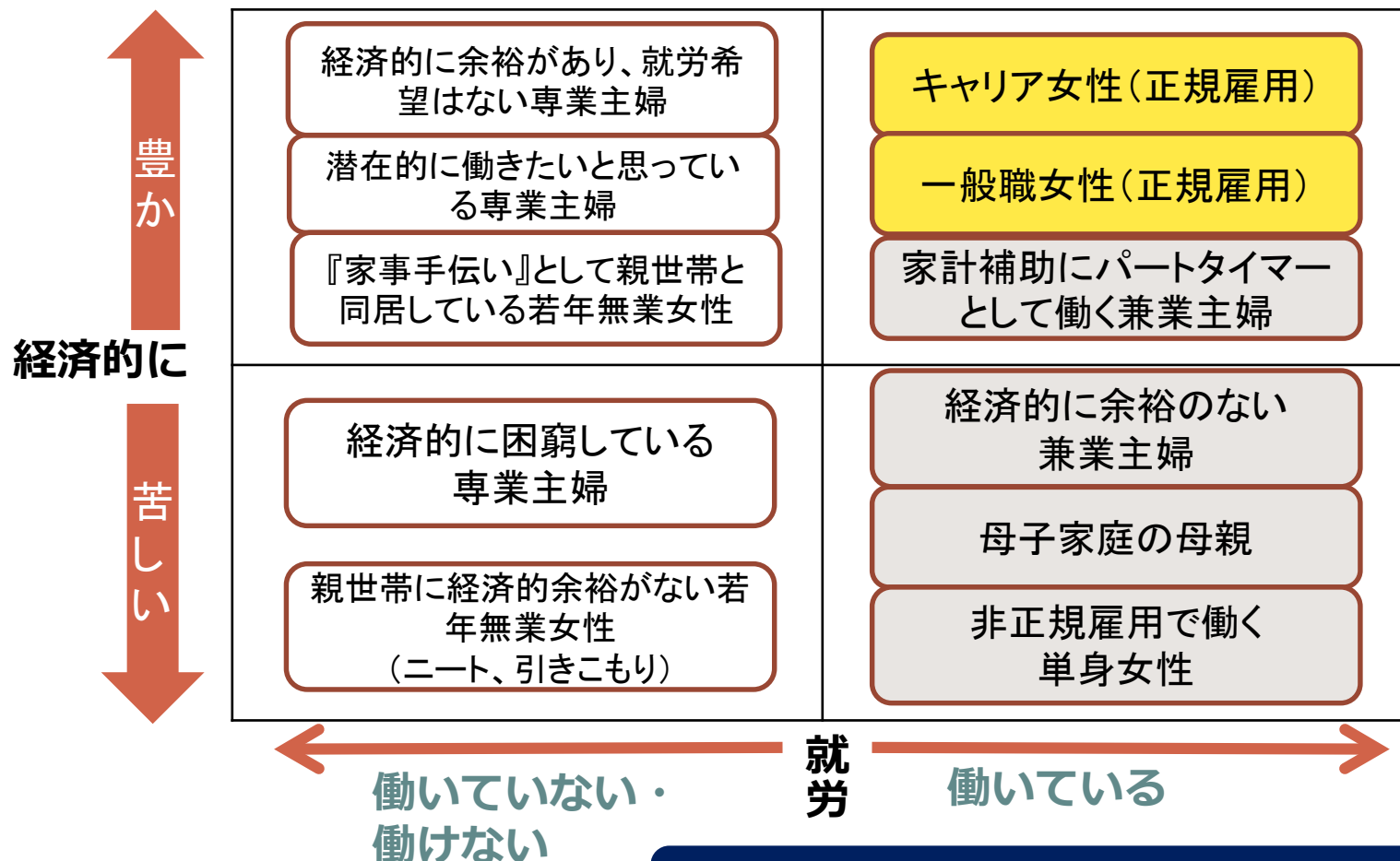
②女性の人材発掘・育成の拠点

③男女共同参画の視点からの地域の防災力の推進拠点

④センター事業は地域のニーズや現場の声を踏まえたものである

女性の現況

ポジショニングマップに落とし込む
と・・・

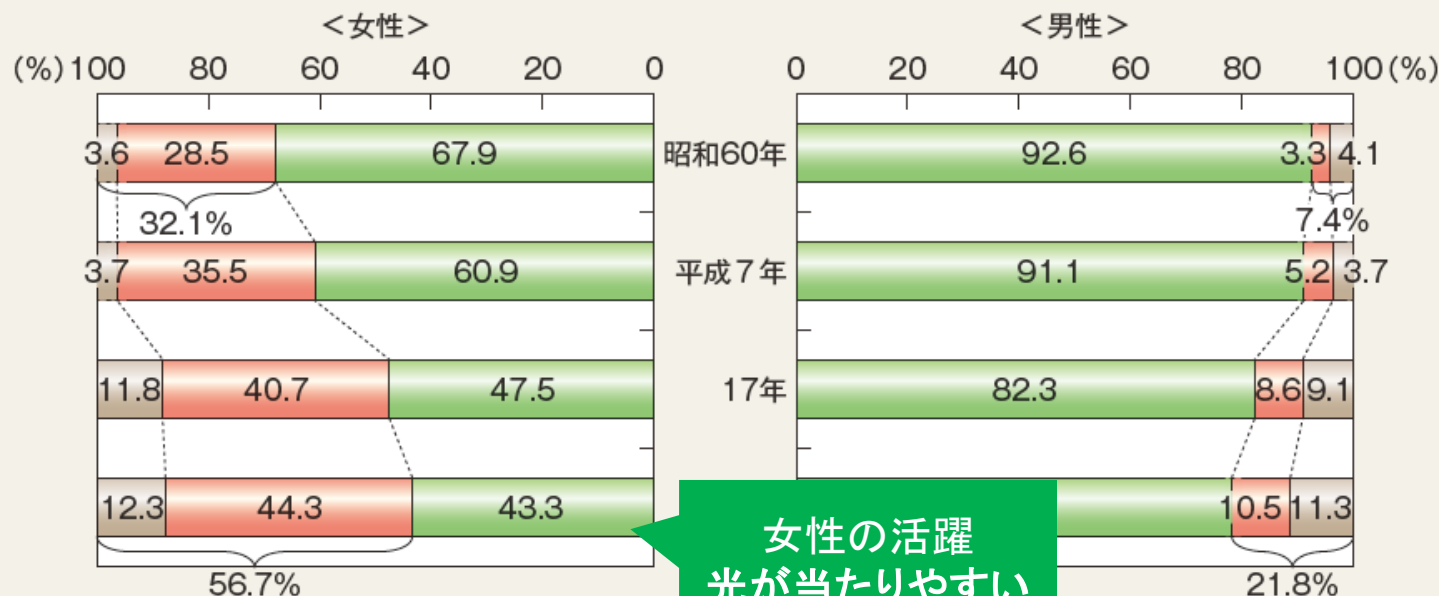


女性の一人ひとりが直面する課題が違う

働く女性

社会全体で女性の活躍推進を応援する機運は高まってきているが・・・

図 6 雇用者（役員を除く）の雇用形態別構成割合の推移（男女別）



女性の活躍
光が当たりやすい
正規職員（約4割）

女性の活躍
光が当たりにくい
非正規労働者

企業内訓練（研修）
を受ける機会が少なく、
キャリアアップ
がむずかしい。

平成7年は、総務庁「労働力調査特別調査」（各年2月）より、17年以降は総務省「労働力調査（詳細集計）」より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査（詳細集計）」とは、調査方法、調査月等が異なることから、時系列比較には注意を要する。

正規の職員・従業員」と「非正規の職員・従業員（パート・アルバイト及びその他）」の合計値に対する割合。なお、第二位を四捨五入しているため、内訳の計が100%とならないことがある。

地域

地域におけるジェンダーギャップ

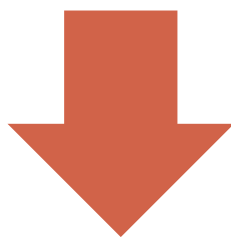
項目	現状	成果目標
自治会長に占める女性の割合	4.9%（平成27年）	10%（平成32年）
P T A会長に占める女性の割合	12.5% （平成27年）	—
家族経営協定の締結数	54,190件 （平成25年度）	70,000件 （平成32年度）
農業委員に占める女性の割合	6.3% （平成25年度）	10%（早期）、更に 30%（平成32年度）
自主防災組織役員に占める女性の割合	（参考）H24年 静岡県調査 13.7%	— （30%）

女性の活躍の状況や、就業・生活の状況は、地域によりさまざまな特徴があり、一様ではないことから、それぞれの地域の特徴を十分踏まえたうえで今後の取組を進めていくことが求められる。

地域の特色を生かしながら、活力のある地域づくりを進めていくことが必要。

男女共同参画センターは男女共同参画に関する意識啓発や知識習得に加え、男女共同参画の視点から地域の課題を解決する実践的活動の場

(第4次 IV-3より)



ジェンダー視点を踏まえた実践的な
プログラムを提供しながら、女性の活躍
を図る

第11分野
男女共同参画
の視点に立っ
た防災・復興
体制の確立

（事例1）「防災」という地域 課題の解決に向けた実践的活動

事業名

「男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営訓練」

目的

避難所の運営や災害現場等での意思決定過程に女性の参画が十分に確保されていなかったため、男女のニーズの違いや男女双方の視点に配慮した対策が不十分であったという東日本大震災の教訓を受け、男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営について学び・実践することで、多様性配慮や災害時における女性リーダーの育成を目的とした。

実施

この4年間で、青森市、八戸市、三沢市、おいらせ町、階上町の3市2町で14回取組み、2,000人以上の住民が「学び」「気づき」「考え」「実践・行動」というプロセスを通して実践。



事前ワークショップ



避難所運営訓練



ふりかえり

女性が中心となって実施した三沢市
淋代地区の避難所運営訓練（10/17）

プロセスを大切にしたプログラムが 女性リーダーの育成につながる

東日本大震災の教訓
や、固定的性別役割
分担意識の強化に
よって生じた事象に
ついて伝える

避難所運営の中で、
自分たちにできるこ
と、しなければならないことを具体的に
考える

実施内容を確認し、
成果と課題をみんな
で語り合うことで、
共感・共有の場とな
り、連帯感が生まれ
る

学ぶ

気づ
き

考え
る

実践

避難所運営
訓練

ふり
かえ
り

自信
意欲
行動

事前ワークショップ

安心・
安全な
場/互い
を尊重

女性でも発言していいん
だ、自分のこれまでの経
験が役に立つ、女性も必
要とされているというよ
うに、女性リーダーの必
要性に気づく

考えたことを実践するこ
とで、また、新たな課題
を発見し、行動しながら
考える。
実践したことで、達成感
があり、自信につながる。

女性のエンパ
ワメントに
つながった

三沢市淋代町内会（自主防災会）

・私は、平成26年淋代町内会役員に選出されましたが、女性は私だけでした。何もわからず、他の役員の方々の話を聞いているだけで、自分の力不足もあり、**女性一人では何もできない複雑な思い**をしておりました。

・そのようなモヤモヤを抱えている中、今回の避難所運営訓練の運営委員は町会長の誘いもあり、39人中、女性が35人。みんなで意見を出し合って、充実感を持ちながら取り組みました。

・いろんな事を「**学び**」「**気づき**」「**知る**」事ができて、とても感謝しています。訓練を通して**自分たちにも様々な事が出来る**のだと感じました。

・そして、いまは、**町内の役員に女性を増やし**、女性だけの委員会を作って、地域防災をはじめ、町内会の活動等積極的に参加し、活動する事で盛り上げて行こうと動き出しました。

（三沢市避難所運営訓練 運営委員長 浪岡寿子）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

女性たちが地域で活躍するためには、共感・共有できる女性の仲間が必要！

八戸市小中野地域避難所運営訓練では

中学生の声

「女性の人たちが大活躍していた！」

「男女が協力することが大切」

「性別関係なしで動けば仕事はかどる」



地域では
次の自主防
災会長に女
性をという
動きが！

地域の次世
代を担う中学
生の意識の
変革にもつな
がっている

地域で女性活躍の加速を図るには

地方・田舎に行けばいくほど、固定的な性別役割分担意識が強い。



- | |
|-----------------------------|
| ○防災＝男の役割 |
| ○自治会長は男性 |
| ○自主防災会の会長は男性、炊出しやケア役割は女性 |
| ○PTA会長は男性・それを支える女性 |
| ○農業女性は仕事も家事・育児もしっかりやってあたりまえ |

女性たち自身も、自分たちがやっていることは大したことではないと自信がない。ケア役割を担うのが女性の役割だと思っている。

草の根的に地域住民の意識を変えていくことが大切

第3分野
雇用等における
男女共同参画の
推進と仕事と生
活の調和

(事例2) 女性の就労支援プログラム

<主催 公益財団法人横浜市男女共同参画推進財団>

事業名

女性のための学び直しプログラム

目的

結婚、出産、その他のさまざまな理由により離職した女性が、一人ひとりのライフプランにあった働き方の見通しを立てたうえで、保育・介護・看護分野の実践的な知識、技術、技能を身に付けて、就労することを支援する。

実施内容

- A プログラム説明会
- B キャリアプランニング講座
- C 個別キャリアカウンセリング（1回目）
- D 施設見学ツアー
- E インターンシップ
- F 専門研修
- C 個別キャリアカウンセリング（2回目）
- G 修了生の会

キャリアアップ型＋マインドアップ型

ポイント	現状	男女共同参画センターの役割
他機関との連携・協働	多岐にわたる支援が必要	<u>地域の社会資源</u> や自治体の関連部署との <u>連携・協働</u> が不可欠
一時保育	自分の学習のために子どもを預けることに罪悪感	無料あるいは安価に一時保育を実施し、積極的に利用してもらうことで、プログラムの学習に集中してもらい、子どもを預けることに対する不安や <u>罪悪感を取り除く</u>
受講生との関わり	幅広い年齢、シングル女性、子どもの年齢も多様、病気を抱えている、DV被害者・・・	受講生一人ひとりの考え方や <u>多様性を尊重</u> し、適度な距離感をもって伴走する。 受講生からの相談には、あくまでも担当職員として話を受け止め、センター内外の適切な相談先につなぐ
安心・安全な場	一人ひとり抱える課題が違ふ	受講生の <u>主体性を尊重</u> し、場の状況を把握し、必要な時は介入し安全を維持する。
ライフステージ	結婚、妊娠、出産、子育て、介護などのライフイベントに左右されやすい	ライフステージに合わせたキャリアの積み方、働き方を <u>中・長期的視点</u> で考える講座にする

男女共同参画センターが実施する ワンストップサポート

○女性一人ひとりが抱える課題が違う

⇒集団研修と個別対応の組み合わせプログラム

○受講生に対し、生活状況に合わせた継続的な関わりが必要

⇒拠点をもつ強み。そこに継続的に「伴走する」担当者がある

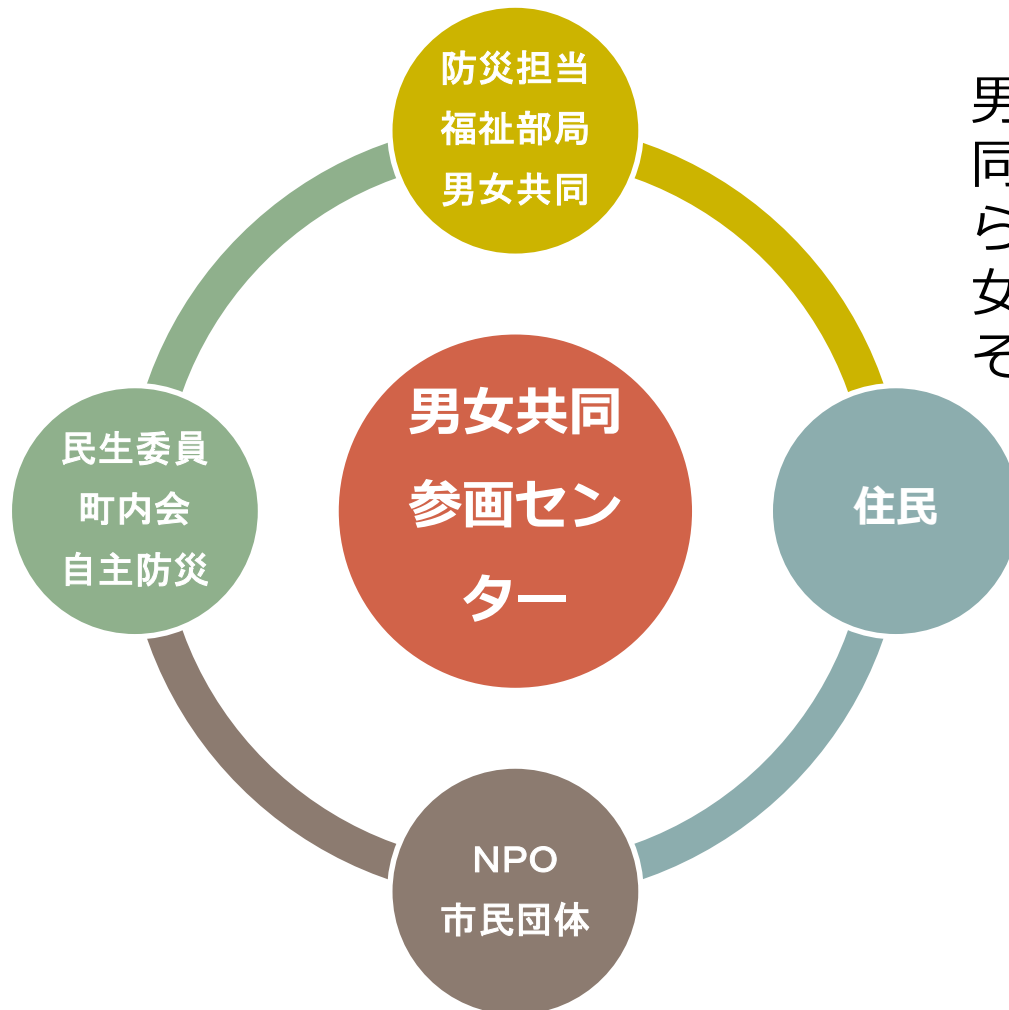
○参加型プログラム

⇒受講生のコミットメントを高め、受講者同士の相互支援を可能にする

研修・情報・相談という総合支援施設の「つよみ」を活かし、女性が持っている力を信じ、引き出し、自らの力で一步踏み出すきっかけをつくる

横断的取組みの必要性

男女共同参画の視点をもつ男女共同参画センターが横串を指しながら事業を展開することで、女性活躍の加速につながる。そのためには、予算を！



交付金を増やし
地域の課題解決に向けた、独自の取組みができるための支援が必要

ジェンダー主流化のためのバックアップ

(講師派遣や研修会の開催)

目的	農山漁村における女性リーダーの育成	女性消防吏員を増やす	女性職員活躍とワークライフバランス推進
主催	青森県農林水産部	青森県消防学校	防衛省
対象	VIC・ウーマン（農業女性リーダー）等の指導者である農業改良普及員	消防職員幹部教育中級幹部研修	自衛隊幹部職員研修
目的	デートDVの認知度	セクシュアル・ハラスメント/パワーハラスメントのない職場づくり	施策の実施に携わる市町村職員の男女共同参画への理解
主催	男女共同参画センター	関係機関	市町村
対象	学校教員 民生委員 主任児童員	大学教員 消防関係者 警察関係者	市町村職員研修

上記関係者が、男女共同参画の必要性を理解はしていても、すべての施策及び事業に男女共同参画の視点を取り入れて実施することはむずかしく、そのためにセンター職員が研修講師として、バックアップする

女性活躍推進法は「手段」であり、一概念 ゴールは・・

女性活躍推進法・
ポジティブアクション

両輪

男女平等

機会の平等から
結果の平等へ＝ゴールは
男女共同参画
社会の形成

根底にある「ジェンダー意識」の解消

ゴールである男女共同参画社会づくりにつなげるためには
女性活躍推進に「**男女共同参画の視点**」を取り入れる

そのためには、地域における男女共同参画の推進の重要な拠点である
男女共同参画センターは
企業やさまざまな組織と連携・つながり、
それぞれの「つよみ」や「機能」を生かしながら
地域の実情に沿った女性の活躍を支援していく。

横断的
取組み

女性活躍の加速の取組みの中に、男女共同参画センターをしっかりと位置付けていただきたい